



校長室だより

令和5年度

11月7日

NO. 31

「開かれた学校」子供たちを地域と共に育てていく

新しい指導要領には、「開かれた学校づくり」が記されています。学校で学ぶこと（指導要領）を誰もが目にすることができ、そして地域と協力して子供たちを育てると言われています。全国的にも、コミュニティスクールが進んでいる地域も増えていると聞きます。

秦梨小学校も、多くの学区の方や保護者の方に支えられています。学習では、「ふれあい学習」で、年間を通して、「田の先生」や「山仕事サポーター」の先生に、たくさんのお話を教えてもらっています。市内でも、これだけ多く、支援していただいている学校は、少ないでしょう。11月7日には、5年生が1年間の稲作りの学習のまとめと感謝の気持ちを込めて、「収穫祭」を開きました。（いろいろ教えてもらい）自分たちで作ったミネアサヒとお味噌汁で収穫の喜びと感謝の気持ちを伝えました。



6日の「部活動まとめの会」には、今年度で最後になるソフトボール部と陸上ダンス部を応援するために、多くの保護者の方が来てくださいました。また、卒業生も何人か来て、懐かしんでいました。すぐに来てくださる保護者や卒業生がみえることも、「開かれた学校」には必要なことであると思います。また令和11年の部活動の地域への完全移行に向けて、益々地域とのつながりを考えていかなければなりません。



10月31日には、来年度入学の「就学時健康診断並びに入学説明会」が行われました。来年入学予定の学区の子供と共に、小規模特認制度により他地区から入学を希望する子供と一緒に参加し、どの子供もお行儀よく検査を受ける様子が見られました。校医の先生の中には、30年以上も昔から、秦梨の子供たちを見てくださっている先生がみえることも知り、地域とのつながりを感じました。

小学校では、学期に一度、学校関係者評価委員会が開かれ、そうした学校の取り組みを学区の代表の方に、ご参観いただき評価してもらっています。また、保護者の方には、3学期に学校診断アンケートを実施していただき、ご意見を伺っています。その評価のもとになるのは、子供たちの姿、それからその子供たちを支える環境であると考えます。子供たちが日々、生き生きと「楽しく」活動でき、その子供の成長を信じ、指導し見守り、支え応援する、学校を始め保護者や地域があることが大事だと考えます。

子供たちは授業の終わりに、「振り返り」の時間があり、自分自身で授業の取り組みを振り返り評価します。目標を達成できたか、「分かる、できる」ようになったか、新しい発見があったかなど、自身を振り返ります。そして学校（先生）は、そうした子供たちの姿を導けたかで自分を評価します。一般の社会でもやはり評価は欠かせないものです。地域の方と触れ合う機会に、「楽しく」、自信や自己肯定感をもって学校生活を送る子供たちの姿が見られるように、保護者や学区の方と共に、子供の成長に責任を持っていきたいと感じます。